小学校　国語

1　教育課程実施上のポイント

（１）目標

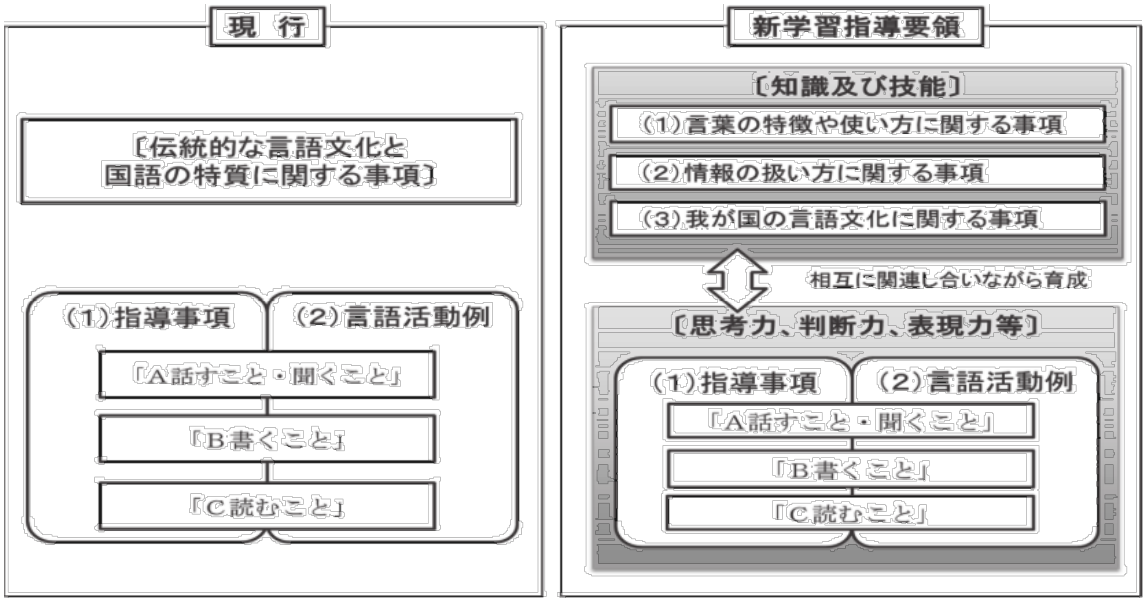
言葉による見方･考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質･能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語科の目標は、育成を目指す資質･能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質･能力」と規定するとともに、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理している。また、このような資質･能力を育成するためには、児童が「言葉による見方･考え方」を働かせることが必要であることを示している。

（２）実施上のポイント

①改訂のポイント

◇三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、従前、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の３領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成していた内容を、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に構成し直している。



◇語彙は、全ての教科等における資質･能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。このため、語彙を豊かにする指導の改善･充実が図られている。

◇情報の扱い方に関する「知識及び技能」は、国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つであるため、「情報の扱い方に関する事項」を新設し、「情報と情報との関係」と「情報の整理」の二つの系統に整理して示している。

◇漢字指導の改善・充実の観点から、都道府県名に用いる漢字２０字を「学年別漢字配当表」の第４学年に加えるとともに、児童の学習負担に配慮し、第４学年、第５学年、第６学年の配当漢字及び字数の変更を行っている。

②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

主体的な学び	子ども自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場面を計画的に設けること、子どもたちの学ぶ意欲が高まるよう、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題として、子どもたちに身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりすることなどが考えられる。
対話的な学び	子ども同士、子どもと教職員、子どもと地域の人が、互いの知見や考えを伝え合ったり議論したり協働したりすることや、本を通して作者の考えに触れ自分の考えに生かすことなどを通して、互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場面を計画的に設けることなどが考えられる。
深い学び	「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設けることなどが考えられる。その際、子ども自身が自分の思考の過程をたどり、自分が理解したり表現したりした言葉を、創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面からどのように捉えたのか問い直して、理解し直したり表現し直したりしながら思いや考えを深めることが重要である。特にそのための語彙を豊かにすることなどが重要である。

③見方・考え方について

◇言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、言葉による見方・考え方を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながることとなる。

国語科において授業改善を進めるに当たっては、言葉の特徴や使い方などの「知識及び技能」や、自分の思いや考えを深めるための「思考力、判断力、表現力等」といった指導事項に示す資質・能力を育成するため、これまでも国語科の授業実践の中で取り組まれてきたように、児童が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるよう、学習指導の創意工夫を図ることが期待されます。

④移行措置について

領域	内容	年度・学年
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	新学習指導要領の学年別漢字配当表に配当されている漢字により指導する。	平成３０年度：第４学年 平成３１年度：第４、５学年

2　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

（１）単元名　新聞に投書を送ろう「新聞の投書を読み比べよう」（第６学年）

（２）単元目標

○新聞の投書を読み比べ、多様な考え方や述べ方に触れ、自分の考えをもとうとする。

○自分の考えが明確に伝わるように、事実と意見を区別したり、文章の構成や述べ方を工夫したりして書くことができる。

○新聞の投書の理由付けの仕方や根拠の挙げ方に気を付けて読み比べ、述べ方の工夫を捉えたり考えたことを発表し合ったりして、自分の考えを深めることができる。

○文や文章にはいろいろな構成があることについて理解することができる。

（３）単元構想（全７時間）

時	学習活動	主体的･対話的で深い学びの視点
1	新聞の紙面の中に投書欄があることを知り、どのような特徴があるか調べる。 感想や問いから学習課題をつくる。 単元の学習計画を話し合う。	・中学生、高校生の実際の投書を紹介することで、新聞の紙面の中に投書欄があることを知り、学習課題に意欲をもつことができるようにする。 【主体的な学び】
2 3 本時 4 5	スポーツのあり方を問う投書を読み、書き手の意見や主張、文章構成、根拠や理由の述べ方などの工夫を捉え、「投書の書き方のポイント」にまとめる。 スポーツのあり方を問う４つの投書を読み、根拠の挙げ方の工夫とその効果を捉える。 スポーツのあり方を問う４つの投書を読み、書き手の意見や主張、文章構成、理由の述べ方などの工夫とその効果を捉える。 同じテーマについて書かれた複数の投書を読み比べ、主張や述べ方の工夫について話し合う。	・複数の投書を読み比べる学習では、書き手の主張や説得の工夫に着目しながら、自分が納得できる投書の理由について友達と交流し合う学びを取り入れ、互いの考えを広げたり深めたりする。【対話的な学び】 ・４つの投書の中から特に納得した投書について一人一人が分析し、納得した根拠を明らかにして対話をすることで、複数の投書の読み手を説得するための文章構成や根拠の挙げ方の工夫などについて明らかにする。 【深い学び】
6 7	これから書く投書の文章構成や述べ方の工夫を考え、構成表をつくる。 事実と意見を区別し、述べ方の工夫を考え、投書の形式で意見をまとめる。	・自分の意見を投書にまとめる学習では、読み手に納得してもらえるよう、目的や意図に応じてこれまでに学んできた文章構成や根拠の挙げ方の工夫を効果的に活用する。 【主体的な学び】

【言語活動の工夫】
相手や目的を意識して自分の考えを発信し、互いの投書を読み比べることで、様々な立場からの見方や考え方に触れることができるようにします。さらに、主張と理由付けや根拠の挙げ方に着目し、筋道を立てて表現するよさを感じることで、学んだことを生活や他教科等にも活用・発揮できるようにします。

（４）授業展開例

①本時の目標（本時３／７）

同様のテーマについて主張している４つの新聞の投書を読み比べ、根拠の挙げ方の工夫とその効果を捉えることができる。

②展開例

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	・留意点　◎評価
1　本時の活動とめあてを確認する。	○前時に学習した投書と、同様のテーマについて主張している３つの投書を比較して、説得力を増すための述べ方の工夫について考えましょう。 ・どの投書にも説得力がある。 ・どの投書にも根拠となる叙述がある。 ・Ｃは具体的な数値を根拠として挙げている。 主張に説得力をもたせる「根拠の挙げ方の工夫」について考えよう	【10の視点】 ①魅力的な課題教材の提示 ４つの投書を手本として示すことで、「説得力を増すための根拠の挙げ方の工夫について考えたい」という児童の思いを引き出し、全員で追究する本時の問いを明らかにしていきます。
2　それぞれの投書から根拠の挙げ方の工夫を見付ける。	○４つの新聞投書を読み比べ、根拠の挙げ方の工夫を見付けましょう。 Ａ．自分の体験 Ｂ．見たり聞いたりしたこと Ｃ．統計に基づく具体的な数値 Ｄ．専門家の言葉を引用	【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実 グループの話合いの内容を捉えながら、互いの考えの相違点や共通点、関連性や疑問点などについて、他のグループとの情報交換を促していきます。
3　それぞれの工夫の効果について、意見を交流する。 (グループ→全体)	○どの工夫を使うと、筆者の主張を伝えるのに一番効果があるでしょうか。 ・Ａは、同じ体験をした人にとっては身近で共感しやすい。 ・Ｃの数値は問題点を客観的に捉えられる。 ・この投書は過度の運動を控えるべきという主張だから、専門家の言葉を引用しているＤだと思う。 ・どれもそれぞれ効果がある。主張したい内容や目的によって使い分けるべきだと思う。	・全体交流の際には、一番効果的であると考える理由について、主張と関連させて述べるように促す。
4　自分の主張について考える。	○自分の主張を新聞に投書する場合、どの工夫を用いるのがよいでしょうか。その理由も考えましょう。 Ａ：マナーの大切さを主張したいので、自分がマナーを守れなかった体験を用いる。 Ｂ：外国の文化を理解しようという主張をしたいので、外国人の友達にインタビューした内容を用いる。	【10の視点】 ④思考の整理 自分の主張を読者に伝えるのに一番効果的な根拠の挙げ方を検討することで、新たな述べ方の工夫についての理解を深めることができます。
5　本時のまとめ、振り返りを行う。	○話合いを通して考えたことを踏まえ、「根拠の挙げ方の工夫」について自分の言葉でまとめましょう。 根拠の挙げ方の工夫とその効果を理解した上で、目的や発信する相手に応じて使い分けることが重要である。 ○今日の授業で分かったことや、これからの学習に生かしたいことを書きましょう。 ・私は環境をよくするためにごみの量を減らすことを主張したいので、Ｃの投書のように数値で根拠を示したいと思います。今日の読み比べで、根拠の挙げ方以外の工夫を発見したので、次の学習でみんなに伝えたいです。	◎投書を読み比べ、根拠の挙げ方の工夫を読み取っている。〔読む能力〕（ノート・行動観察） 【10の視点】 ⑧学習を振り返る活動の設定 本時の学びを振り返ることで、新たな述べ方の工夫とその効果について自分の言葉で説明したり、学んだことを活用したりすることができます。

1　教育課程実施上のポイント

（１）目標

言葉による見方･考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質･能力を次の通り育成することを目指す。
(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語科の目標は、育成を目指す資質･能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質･能力」と規定するとともに、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理している。また、このような資質･能力を育成するためには、生徒が「言葉による見方･考え方」を働かせることが必要であることを示している。

(1) は「知識及び技能」に関する目標を示したものである。社会生活における様々な場面で、主体的に活用できる、生きて働く「知識及び技能」として習得することが重要となる。

(2) は「思考力、判断力、表現力等」に関する目標を示したものである。未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」として育成することが重要となる。

(3) は「学びに向かう力、人間性等」に関する目標を示したものである。内容については、この教科の目標及び学年の目標においてまとめて示すこととしている。

言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、「言語活動を通して」、資質･能力を育成することを目指すとしています。引き続き、言語活動の質の向上に向けて取り組んでいくことが大切です。

（２）実施上のポイント

①改訂のポイント

◇三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、従前、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の３領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成していた内容を、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に構成し直している。

◇語彙は、全ての教科等における資質･能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素であるため、語彙を豊かにする指導の改善･充実を図っている。

◇情報の扱い方に関する「知識及び技能」は、国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つであるため、「情報の扱い方に関する事項」を新設し、指導の改善･充実を図っている。

◇ただ活動するだけの学習にならないように、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けている。また、全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けている。

②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

○国語科では、「主体的･対話的で深い学び」の視点から言語活動を充実させ、子供たちの学びの過程の更なる質の向上を図ることであると言える。

主体的な学び	子供自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場面を計画的に設けること、子供たちの学ぶ意欲が高まるよう、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題として、子供たちに身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりすることなどが考えられる。
対話的な学び	子供同士、子供と教職員、子供と地域の人が、互いの知見や考えを伝え合ったり議論したり協働したりすることや、本を通して作者の考えに触れ自分の考えに生かすことなどを通して、互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場面を計画的に設けることなどが考えられる。
深い学び	「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設けることなどが考えられる。その際、子供自身が自分の思考の過程をたどり、自分が理解したり表現したりした言葉を、創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面からどのように捉えたのか問い直して、理解し直したり表現し直したりしながら思いや考えを深めることが重要である。

③見方・考え方について

◇言葉による見方･考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。この「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりする」とは、言葉で表される話や文章を、意味や働き、使い方などの言葉の様々な側面から総合的に思考・判断し、理解したり表現したりすること、また、その理解や表現について、改めて言葉に着目して吟味することを示したものと言える。

授業改善を進めるに当たっては、指導事項に示す資質・能力を育成するため、これまでも授業実践の中で取り組まれてきたように、生徒が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるよう、学習指導の創意工夫を図ることが期待されます。

④移行措置について

領域	内容	年度・学年
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	「『茨、媛、岡、潟、岐、熊、香、佐、埼、崎、滋、鹿、縄、井、沖、栃、奈、梨、阪、阜』を読み、書き、文や文章の中で使うこと」を取り扱う	H31 年度：第 1 学年 H32 年度：第 1、2 学年
	「共通語と方言の果たす役割について理解すること」を追加する	H32 年度：第 1 学年

2　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

（１）単元名　『どのようなつながりが登場人物を変えたのか』ということに着目して作品を読み、みんなに作品を紹介しよう「星の花が降る頃に」（第１学年）

（２）単元目標

○課題に沿って本を選び、その内容を進んで紹介しようとしている。
○作品の展開を確かめながら、場面の状況や人物のつながりを読み取らせる。
○人物や情景の描写などに着目して登場人物の心情とその変化を捉え、それについて自分の考えをもたせる。
○文脈の中で言葉の意味を捉え、表現の工夫を味わい、語彙に関心をもたせる。

（３）単元構想

時	学習活動	主体的･対話的で深い学びの視点
1	○単元全体の見通しを持つ。 ○「星の花が降る頃に」を読み、登場人物や内容を確認する。	・「どのようなつながりが登場人物を変えたのか」という学習課題を確認し、単元全体の見通しをもたせる。【主体的な学び】
2 3 4	○人物や情景の描写に着目しながら人物相関図を作成する。 ○「どのようなつながりが登場人物を変えたのか」について考えたことをまとめる。 ○同じつながりに注目して読んだ他者と交流する。 ○別のつながりに注目して読んだ他者と交流する。 ○交流で話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。	・自分と同じまたは違う考えの他者と交流させることで、自分の考えをより明確にさせるとともに叙述と自分の考えを往還させる。【対話的な学び】 ・他者の考えを聞いた上で作品に立ち返らせ、叙述のもつ意味や働きなどを問い直させ、再度自分の考えを形成させる。【深い学び】
5 6	○「人物のつながりに味わいがある作品」をテーマに、これまでの読書記録から１冊選ぶ。 ○紹介用カードを作成する。 ○作成した紹介用カードを用いて交流する。	・自分自身の読書記録という身近なものを活用させることで、自分の読書の在り方を振り返るきっかけとさせる。【主体的な学び】

【言語活動の工夫】
自分がこれまでに読んできた本の中から課題に沿って１冊選び、人物相関図を活用して本の紹介をします。このような言語活動を設定し単元の初めに生徒に提示することで、主たる教材を「登場人物のつながり」という観点から読むという目的（何のために文章を読むのか）をもちながら学習を進めていくことにつながります。

（４）授業展開例

①本時の目標

異なる視点から考えたつながりについて交流することを通して、「どのようなつながりが登場人物を変えたのか」ということについて自分の考えをまとめることができる。

②展開例

学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	・留意点　◎評価
○本時の活動とめあてを確認する。		**【１０の視点①】** **魅力的な課題教材の提示** 「交流後に、もう一度自分の考えをまとめ直す」ことを確認することで、生徒に見通しを持たせるとともに交流の目的を意識させることができます。
異なる視点から考えたつながりについて聞き合い、つながりについての自分の考えをまとめ直そう。		
○交流する。 ・個人での交流	○「異なる視点から考えた」友だちの意見を聞き、気付いたことを伝え合おう。 ・戸部君の最後のセリフから、彼のユーモアによって主人公の私は暗く沈んでいた気持ちを明るく切り換えることができたと思います。 ・僕は、戸部君の最後のセリフから主人公は戸部君の成長を感じたと思う。それによって過去にとらわれている私は、自分も変わっていかないといけないと思ったんじゃないかな。	・自分の再考に参考になる他者の意見をメモする。 **【１０の視点⑥】** **学び合う活動の充実** 他者と交流する際に相違点を意識させることで、自分の叙述のとらえ方などを再確認させたり考えの幅を広げさせたりすることができます。
・全体での交流	○交流で気付いたことを全体の場で出し合って、「どのようなつながりが登場人物を変えたのか」について考えを深めよう。 ・戸部君の同じ言動についても色々なとらえ方があり、自分の読み方をもう一度確かめようと思った。 ・銀木犀自体が主人公に影響を与えているというとらえ方が印象に残った。	・メモを基に交流での気づきを全体の場で発表する。 **【１０の視点④】思考の整理** 交流での気づきを次の活動につなげるために、メモ等で可視化しておくことが大切です。
○自分の考えをまとめ直す。	○友だちの考えを基に自分が着目した叙述をとらえ直して、つながりについての自分の考えをまとめ直そう。 ・戸部君の最後のセリフのとらえ方がいろいろあることが分かったから、自分の「戸部君の成長」というとらえ方をもっと伝わるように他の表現も含めてまとめ直そう。	**【１０の視点⑥】** **学び合う活動の充実** 交流で終わらず、他者の考えを踏まえ、自分がどの叙述に着目してどう考えたのかを捉え直させることが深い学びにつながります。
他者との交流で気付いたことを踏まえて、再び作品に立ち返り、一つ一つの言葉や対象と言葉との関係性を問い直し、再び自分の考えを形成する。 言葉による見方・考え方		◎交流で気付いたことのメモを基に再度叙述を吟味して、自分の考えをまとめ直している。
○振り返りを行う。	○今日の授業で分かったことやそれがどのようにして分かったのかということについて書こう。 ・同じ表現について友だちととらえ方が違うことに気付くことで、自分のとらえ方やその理由の説明の仕方をより明確にすることができた。	**【１０の視点①】** **魅力的な課題教材の提示** 短時間であっても振り返りを交流することで、自分の学びをより自覚することにつながります。